四條畷市教育フォーラム 2013

「子どもたちに確かな学力を」

平成 25 年 2 月 2 日（土）13:00 受付

四條畷市立総合体育館サンアリーナ 25

多目的室（308 席）

幼・小・中学校園教職員、市職員、保護者、地域関係者

どなたでも参加できます。

内容

○実践発表「チャレンジ！西中校区」13:35～14:05

四條畷西中・くすのき小・岡部小

○講演「学力を育てる」14:05～14:50

志水　宏吉さん（大阪大学大学院教授）

○パネルディスカッション

「確かな学力の定着に向けて」15:00～16:30

パネリスト　志水宏吉さん（大阪大学大学院教授）

古谷彰悟さん（四條畷西中学校教諭）

金子 摂さん（岡部小学校教諭）

花岡 純さん（くすのき小学校首席）

羽森清司さん（四條畷南小学校長）

森田政己さん（四條畷中学校長）

コーディネータ　河江文代さん（市教委上席主幹）

四條畷市教育フォーラム 2013

志水宏吉教授 講演「学力を育てる」要旨
平成 25 年２月２日（土）四條畷市立総合体育館多目的室

Ⅰ.「つながり格差」

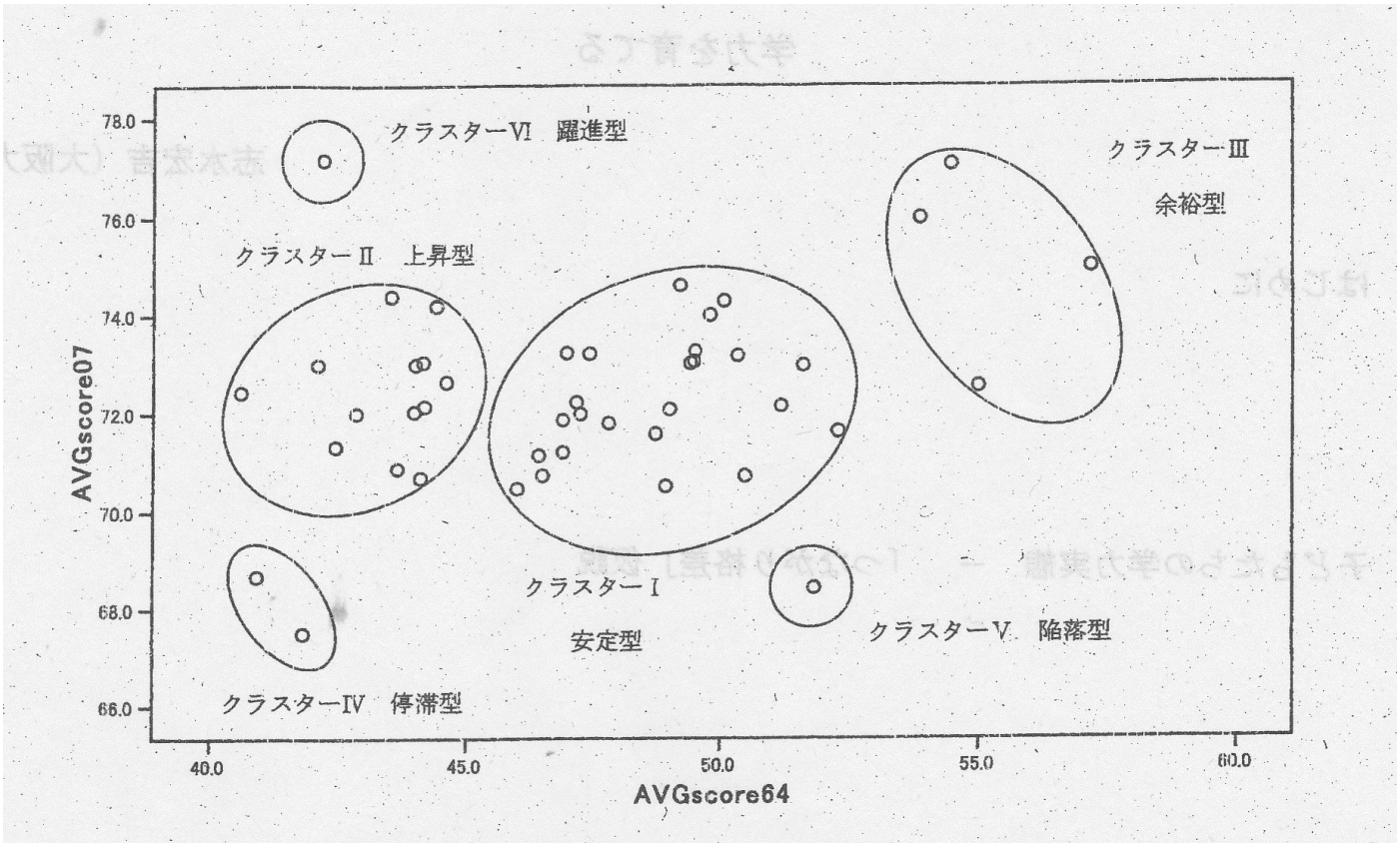


図２　64 年と 07 年の調査結果の散布図

大阪と秋田の話になります。大阪は小中学生の全国学力・学習状況調査の結果が、少ししんどい状況にありますが、昔は非常に高く、逆に今、日本で１番ぐらいだと言われている秋田県ですが、調べてみると、昔は最下位に近かったということです。

1964 年の結果と 2007 年のものとを、都道府県別に比べてみました。大きく６つのグループに分けられ、真ん中に位置する一番大きな円は安定型と名づけましたが、昔も今も真ん中という中庸を保っているグループです。これは当然ですが、全体の半分くらいあります。

２番目に大きなグループ、上昇型と名づけましたが、13 県あります。この上昇型ですが、昔は 40 点から 45 点と、平均点が非常に低かったのですが、今のテストでは 70 点から 75 点と真ん中に浮かび上がっているということですので、昔は下位、今は中位に上がっているということで上昇型。非常に興味深いのが、ほとんどが東北地方と九州地方の各県です。東北や九州は、昔は低かったけれど、今は真ん中、あるいは中の上に上がっています。

さらにその上に躍進型、グループではなく１個だけですが、集団から抜きん出た位置にあるのが秋田県です。昔はほぼ最下位に近かったのに、今はトップになっています。秋田の人はどうしてか分からないそうです。

また、余裕型と名づけたものがあります。これは昔も上位、今も上位ということです。愛媛県と香川県、福井県と富山県です。今の全国テストでは秋田・福井・富山が３年続けて「金銀銅」です。その４つの県は昔もいいし、今もいいという位置をキープできています。

逆に昔も今もしんどいということで、北海道と高知県があります。昔の沖縄県のデータはありませんが、沖縄県も入れたらきっとここに入るだろうなと想定されます。

そして、陥落型と名づけたものが、我々の大阪府ということになります。細かく見たら、1964 年は上から６番目くらいです。上位層だったのが、2007 年は下からの銀メダルか銅メダルくらいの位置になっています。ただ、昔の方が上下の幅が大きいということです。今の方がもうちょっと縮まっています。

順番をつけたら、今は秋田が１番で大阪は少ししんどいという事情になっています。問題は「なぜそういうことが起きたのか？」です。様々なデータを集めて、相関関係を見てみますと、我々の視点から見て面白い結果が見られます。

まず 1964 年、東京オリンピックの年、その頃の小中学生の学力に何が影響を与えていたかというと、経済的な要因が一番です。結論だけ言いますと、昔の学力格差はその地域の経済的な豊かさ、文化的な豊かさと非常に関係していました。もっと簡単に言いますと、都会の子どもは勉強ができ、点数が高かった。田舎の子どもは勉強をしなくてもいいという事情が多分あったのでしょう。別に進学しなくても生活ができたということもあって、ペーパーテストの点数は都会の子より低かったということです。私は西宮市で生まれ育ちました。当時、私は行きませんでしたが、塾に行く子はたくさんいました。受験もしました。都会ですから、いろいろな楽しいところもあれば、勉強になる施設もたくさんありました。高校へ行くのも、大学へ行くのも、我々の世代では普通だと思っていたなあと思います。同じ歳でも、秋田県や宮城県の人は、高卒で就職するのが当たり前になっていたと思うんですね。第１次産業が健在であったなどという状況の中で、東北や九州の子の学力が低く、東京や大阪の子の学力は塾の影響もあったでしょう。

昔の状況はわかりやすいです。問題は今です。都道府県別で昔は全然影響を与えていないと言えるけれども、今日では非常に大きい力の強い要因が３つ見つかりました。

①離婚率

昔は離婚率というのは都道府県によってあまり違いはありませんでしたが、今はかなり違いがあるんですね。離婚率が高い県では子どもたちの学力が振るわない。圧倒的に
そういう結果が出てきています。

②持ち家率

生活保護率というのは、今も経済の大事な指標ですので、学力に関係あるんですが、持ち家率というのが、昔はあまり関係ないけども、今は大きく影響しています。

③不登校率

様々な分析を行った結果、特に中学生の学力に非常に大きな影響を与えているのが発見されました。

離婚率、持ち家率、不登校率が、今の子どもたちに与える学力の影響が、「金銀銅」という結果が出てきました。それがなぜだろうということで、仮説として表したのが「つながり格差」と名付けたものです。

我々の仮説になりますが、まず離婚率。誤解していただきたくないのが、離婚している家庭の子どもの学力が低いということではなく、一つひとつの家庭や一人ひとりの子どものことを言っているのではなくて、都道府県で見たときに離婚率の高低が、全体的な環境、家庭のあり方として影響を与えている、というふうに考えています。幼稚園、小学校、中学校の子どもがいたとして、やはり父母が離婚したら辛いし悲しい、家族関係が非常に不安定なものになり、家庭生活のリズムも崩れるでしょう。離婚率が高い都道府県は、そういった家庭が相対的に多く、そういった子どもたちの学力の出方は振るわないということになります。離婚率というのは家庭、家族、子どもとのつながりの揺らぎを示すのではないでしょうか。逆に離婚率が低い秋田県は安定しているということです。

２番目の持ち家率が何を意味するのか。秋田県は持ち家率が全国有数ということです。大阪府は低いですね。しかし、注意しないといけないのは、県民平均所得というのを見てみると、大阪の方が秋田より上です。経済的な水準と持ち家率は、関連していますが、イコールではないということです。もっと違う要因があり、我々が考えたのは、持ち家率が高い地域というのをイメージすると、多くの人が数世代暮らしているということです。おじいちゃん、おばあちゃんが同居している割合も高かろうということです。親類も近所にいるだろうし、それだけではなく、近隣の血のつながっていない人でも、行事とか祭りとか色々な局面で接することが多く、地域の人が見れば「どこそこの〇〇君」みたいに顔を見たらわかる、そういう関係です。要するに、持ち家率の高さというのは今日でいうところの、子どもと近隣社会、地域社会とのつながりの豊かさというのを表すのではないかなと思います。大阪でもそういう地域はあると思いますが、そうではないところも多いですね。

最後に不登校ですが、不登校自体もいろいろな原因があって、いろいろなタイプの子どもがいて、一概には言えないわけですが、秋田の子は基本的に教師を信頼しており、先生の言うことは当たり前で学校の宿題はきっちりやる。中学生でもほぼ全員やると言っていました。しんどいこともあるかもしれませんが、ずっと休んで家に引きこもって、ということはなかなか起きません。逆に阪神間の地域の中には、家庭でしんどい状況が、例えば、子どもも朝なかなか起きることができない、教師が呼びに行ったら、お父さんとお母さんと一緒に寝ていたり、「学校なんか行かなくてもいいやん」という場合もあるように聞いています。「あまり登校刺激を与えない方がいい」であるとか、「いろいろな学びの場、学べる状況があるので、別にいややったら学校に行かなくてもいい」、「よそがある」など、非常に常識のレベルが違うと思うのです。数字で出てきた離婚率、持ち家率、不登校率というのは、無理矢理かもしれませんが、家庭、地域、学校と子どもとのつながりを表しています。そのつながりが強い地域、すなわち、離婚率が低い、持ち家率が高い、不登校率が低いところは押し並べて学力がいいんです。前者の典型が秋田県、後者の典型が、残念ですが大阪府ということになります。昔の学力格差は都会と田舎の格差、都市格差だった。

いまでは「つながり格差」が学力格差を生んでいるのではないかということが、我々の仮説です。要するに、いろいろな課題を抱えた子どもが、勉強をしたいなと思ったときに周りで声をかけてくれる大人がいない。逆に足を引っ張る他人がいる。何か聞こうにも聞けない状況がある。要するに「つながり格差」のしわ寄せを受けるのは、しんどい層だということは間違いないということです。学力の低下が問題ではなく、つながり格差の拡大が問題なのです。

では、どうしたらいいのかというと、家庭、地域、学校、それぞれの中で子どもを取り巻くつながりをどれだけ新たに作ってあげられるか。家庭、地域、学校の三者の連携の中でそれを更に広がりのあるものとすることができる。それらを考えるしかないのではないでしょうか。

Ⅱ．学力はどう形成されるか

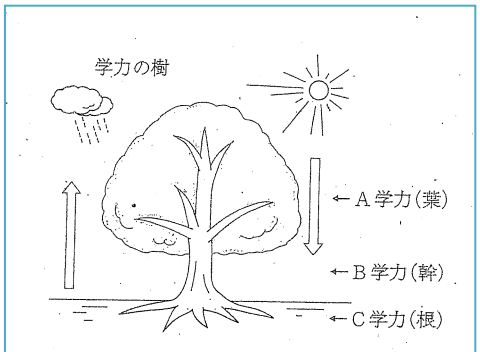


図 1-4　学力の樹

次に、話を学力に絞ると、いったいどのようにそれが形成されていくかということです。
ここ数年学力のとらえ方について「学力の樹」というアイデアで話をしています。学力はＣ根とＢ幹とＡ葉から成っており、いろんな要素が渾然一体となって子どもたちの学力を作っているというもので、これまでにもいろんな場面でお話をしてきているので、ここでは簡単にご説明します。

Ａの葉は目に見える学力、個々の授業で伝達や習得される知識・技能を１枚１枚の葉と考えます。見える学力といわれるものです。

Ｃの根は人間の内面に秘めているもの、クセ、性根、性分とも言えます。また別の言い方をすれば自尊感情、アイデンティティ、意欲・関心・態度であらわされるようなもの。

Ｂの幹は今の教育のポイントとなっています。学力調査結果で上位だった香川県で国語のＢ区分の結果が悪かった。去年の暮れに授業を見に行く機会があったんですが、教師主導でみっちり覚えましょう式の授業がみられました。秋田では中学校の先生も小学校的な指導で、対話、学び合い、教え合い、活発で活気があるのでＢも強いです。また大阪は若い先生方が多いですが、秋田では 40～50 歳台のベテラン先生が多いこともいえます。年輪のイメージで徐々に太くなっていくもので、子どもたちの考える力や知恵、思考力・判断力・表現力にあたります。それらが一体となって学力を形作っています。

Ｃの根を育てるには、意欲より習慣が大事と思います。根っこの先の根毛を育てるのが確かな学習習慣といえます。つまり、習慣が意欲を育てると考えています。習慣レベルをしっかりと鍛える必要があります。低学年からしっかりとほめられたり、プラスの体験を持たせながら達成感から意欲につながる学習習慣、生活習慣で意欲を育ててほしいと思います。

Ⅲ．「力のある学校」のスクールバスモデル

Together

①「エンジン」＝気持ちのそろった教職員集団	*(Teachers)*
②「ハンドル」＝戦略的で柔軟な学校運営	*(Organization)*
③「前輪・左」＝豊かなつながりを生み出す生徒指導	*(Guidance)*
④「前輪・右」＝すべての子どもの学びを支える学習指導	*(Effective teaching)*
⑤「後輪・左」＝ともに育つ地域・校種間連携	*(Ties)*
⑥「後輪・右」＝双方向的な家庭とのかかわり	*(Home-school link)*
⑦「インテリア」＝安心して学べる学校環境	*(Environment)*
⑧「ボディ」＝前向きで活動的な学校文化	*(Rich school culture)*

平成 20 年２月に大阪府教委のガイドラインということで、府から出していただきました。立体的に把握できるようにということで、スクールバスで表したということです。大事な８つの項目を２つずつにして、４つの部分にあてはめたというのが、このスクールバスモデルのポリシーです。

その内の第１ペア、最初の１番、エンジンです。これが気持ちのそろった教職員集団、やはり、教育は人だということです。教員だけでなく、事務職員、校務員、調理員、全部ひっくるめて教職員集団。この人たちの気持ちがそろっている。これがスクールバスモデルの基本ということになります。

２番目のハンドル（アクセル・ブレーキ）というのは学校運営のことです。これを１番と組み合わせています。

次にタイヤ。まず最初に来るのは前のタイヤです。絵で言いますと３番、４番です。豊かなつながりを生み出す生徒指導と、すべての子どもの学びを支える学習指導。生活指導の領域ではやはり、「豊かなつながり」を生み出す先生と子どものつながりがベースになると思います。「豊かなつながり」というのは、キーワードになるだろうと思います。

４番のところの授業、学習指導のところについては、すべての子どもの学びを多面的にサポートする。つまずいている子には基礎学力の保障をしないといけない。それをクリアするには、多面的な力を身につけてほしいというようなことを思いました。後ろ

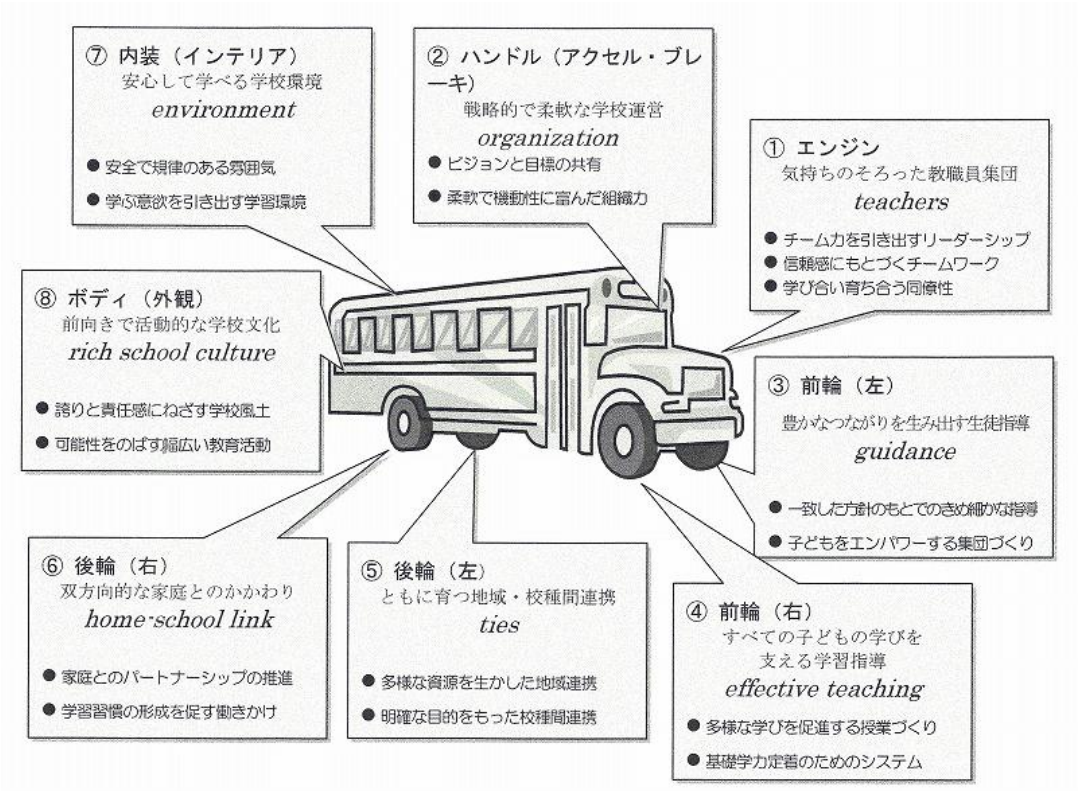
のタイヤは外部連携のタイヤです。

５番、ともに育つ地域・校種間連携。「ともに育つ」がキーワードです。

６番、双方向的な家庭とのかかわり、家庭とのつながりということです。連携の活動というのは子どもを育てるのはもちろんですが、自分たちも育っているなと思えることです。

７番、インテリア（内装）、安心して学べる学校環境という言葉をしています。

８番、ボディ（外観）前向きで活動的な学校文化、これは外から見える、学校の姿。学校が地域に「こういう学校です」と自信を持って打ち出せるような姿、そのようなことを書いています。これがスクールバスモデルです。



競争主義、成果主義のアプローチではない大阪が大事にしてきた学校づくりのバスモデルを参考にしてほしい。

Ⅳ．学校・家庭・地域が協働で

今日の話をまとめますと、同心円みたいなものを考えていただけたらいいかと思います。一番コアな部分に先生方のつながりがある、これが芯です。その次には先生たちと子どもたちとのつながりがある。もうちょっと外には家庭とのつながり、あるいは地域とのつながり。こういうつながりを幾重にも張り巡らせていただいて、学びの恩恵を受けることができない子どもたちを支えるということです。つながりで浮力をつけるというイメージです。そのような考え方でやっていただけたらなと思います。一人ひとりの大人たちが協働で環境をつくる。バスモデルの学校・家庭・地域・市で一体となった教育を進めていきましょう。（完）

四條畷市教育フォーラム 2013　集約結果

実施日　平成 25 年２月２日（土）13:30～16:30
場　所　四條畷市立市民総合体育館サン・アリーナ 25　多目的室

教育フォーラム2013参加者数			
	教職員	保護者地域	計
学校園	132	59	191
市役所		13	13
市議会議員		7	7
教志セミナー		9	9
他市その他		15	15
合計	132	103	235

四條畷市教育フォーラム2013アンケート集計　2013. 2. 2.　5. 00満点										
	今回の内容は、あなたの期待にこたえていましたか					今後の子育てに参考にしようと思いましたか				
	とても	まあまあ	あまり	まったく	満足度	とても	まあまあ	あまり	まったく	活用度
小学校教職員	12	15	0	0	4.44	11	13	1	0	4.40
中学校教職員	3	3	0	0	4.50	4	1	0	0	4.80
保護者	9	13	2	1	4.20	11	10	2	1	4.29
市職員	4	2	0	0	4.67	4	2	0	0	4.67
地域関係者	0	1	0	0	4.00	1	0	0	0	5.00
市議会議員	1	1	0	0	4.50	1	1	0	0	4.50
その他	5	4	0	0	4.56	5	4	0	0	4.56
全体	34	39	2	1	4.39	37	31	3	1	4.44

参加者の感想（全文掲載）

小学校教職員

- 西中校区の各学校の実践発表がとてもよかったです。教職員が力を合わせて、子どもたちの学力向上に貢献できればなと思います。
- 各校の実践を聞き、明日の教育の参考となりました。また講師の先生のお話は大きな力となりました。今日参加してとてもよかったです。こういうフォーラムは実施していただいて効果は大きいと感じました。
- 西中校区の様々な取り組みを聞かせていただき、とても参考になりました。子どもたちの将来につながる取組を、日々の実践の中で行っていけるよう努力していきたいです。今日はこのような機会をいただき、ありがとうございました。
- 各校の先生方の努力は頭が下がります。“負けてられない” という思いもあります。頑張りたいという意欲もわいてきました。ただ「うまくいかない」部分「障害となっている」事柄にはあまりふれられていなかった（ふれられない部分もあるのでしょうが）と思います。そのあたりの解決に向けての方向性が見いだせれば、さらに力となったと思います。かかわられた方々に感謝いたします。
- 各学校の様々な取り組みを知り、知識の幅が広がりました。自分はまだまだ経験が浅いので、自分のクラスせめて学年で手一杯です。次年度は学校全体の視野を広げて、クラスの目標は当然ながら” 学校の目標 “を達成すべく、指導の技術、方法を身につけていきます。本日はありがとうございました。
- 観光のフォーラムのときの小３の児童の姿を見た時のような感動が伝わらない。各校の報告、講師の先生の話も少し物足りない（子どもの姿が伝わってこない）。取組みの中でのしんどさや、教師が悩みをこういう場で語ってもよいのではないかと思います。講演の講師はもう少し広い範囲からお呼びしてもいいのではと思います。（教職員や父母が聞きたいと思う人を）
- 他校の実践を聞けて良かったです。子どもたちにしても教師にしても、学んでいく中で仲間とのつながりは大事だなあと感じました。
- 同じ中学校区の小学校が集まってそれぞれの学習について取組みについて、発表し合うことがとても有意義なことと感じました。これをまた続けていくといいと思います。
- 各校の具体的な取組みを参考にして生きた。志水先生の話をもっと時間をかけて詳しく聞きたかったです。
- 各校の教育を進めるうえでの参考になる話を聞けて良かったです。
- 志水先生の話が大変良かった

- 志水先生のお話をもっと聴きたいと思いました。
- こんな風に他校との連携を深めていくこともとても大切なことだと思いました。
- 他校区の取組みを知ることができて新鮮でした。参考になる活動や工夫もあり、実践できるものから取り入れていきたいと思います。ありがとうございました
- 他校の取組みなどが知れて大変参考になりました。また、志水先生のデータに基づいて分析や他県のお話が聞けて良かったです。大阪の教育も悪いことばかりではなかったと感じ、明日からの教育実践に向けて頑張っていきたいと思いました
- いろいろ考える時間、機会をいただきありがとうございました。講師の志水先生の話をはじめ、どの学校にも学力がどんなものか、学力にはどんなものがあるかを考える視点が様々であり、３校のアプローチは異なりましたが、わかりやすい発表であったと思います。志水先生のお話を借りれば、学力の樹を育むには、Ａ，Ｂ，Ｃそれぞれの学力を育てることが大切とありましたが、そのことがとてもよく分かりました。学力向上が今日重要視される中、どうしても点数化されやすい。ＡやＢの（とくにＡの学力）学力が話題になってしまいがちだけれども、それらを支えるＣの学力（意欲や習慣、学習規律を含め）が大切だと私は思っています。そのことの大切さを、志水先生のお話や、岡部小や西中の取組みから確信しました。どちらにしても教師集団が子どもたちも事を大切に考え、同じベクトルで進むことの重要性を教えていただき、今後の参考にさせてもらいます。Ａ（葉）の部分の学力を伸ばすにあたり、私自身５年前までは個人的に百マスプリント（２０マス、５０マスも含めて）や音読、漢字音読を取組んでいましたが、４年前、特別支援を必要とする子がおり、その子が他の子と同じようにプリントに取り組むことのしんどさを実感しました。その年、取組むのを断念し、学習環境づくりに重点を置き、聞く態度の育成に切り替えました。特別支援を必要とする子や支援学級の子を置き去りにしない取組みが大切と考えます。
- こういうフォーラムだと“学校がんばれ”ということが多かったが、家庭、地域、行政の教育力が水面下にあり、目に見えない部分での力が大事だということがよく分かってよかったです。大阪の事情も考慮しながら、学校での取り組みの方向を今後できたらいいのかなと思いました。西中での取り組みは、校内研として全教職員が一致しできるテーマで、教科にかかわらなくできてよかったと思います。くすのき小の取組みは府の提唱している「葉」の部分をふやすことの例がよく分かりました。岡部小はどこの学校でもしていることだと思いますが、水面下での取り組みが大事なことを再度しめしてもらって心強いものでした。
- 学力向上とかかげていますが、見える学力だけでなく、見えない学力にも焦点を当てていただきたい。志水先生がおっしゃっていたＡ学力、Ｂ学力、Ｃ学力の三つの学力がバランスよく育つことが、本当の学力向上だといえるのだと思います。私は四條畷の教員として、日々努力して異きたいと思いますので、どうか、長い目で見ていただきたいと思います。
- 志水先生の「読み、書き、そろばん、ボケとツッコミ」と言われたのがよかったです。ボケとツッコミの部分を大切にしていきたいです。
- いろいろな学校の実践を聞くことができ、参考になることも多くありました。志水先生のほんわかとした温かいお話もとても勉強になりました。特に、大阪の五つの要素「読み、書き、そろばん、ボケ、ツッコミ」が心に響きました。頭でっかちにならない教育をほんわか、温かい気持ちではぐくんでいきたいです。
- 他校の実践や日頃の取組みなどを詳しく聞くことができて、とても参考になりました。「小中連携」という言葉が大変キーワードになるのではと感じました。小学校から中学校へ行った時の段差をなくすために、校種をこえて子どもたちのために何ができるか、どの実践が効果的かを交流し、実現することができたらと感じました。また、志水先生のお話が、わたしの感じる部分と同じ部分が大変多く、とても勉強になりました。学力は必ず三つの学力（根・幹・葉）が育たないと本当の力には結びつかない日ごろから感じています。どうしても「葉」の部分ばかりに目がいってしまう状況には疑問を感じていたところに、志水先生のお話を聞くことができたので、明日からの力となりました。まず私のできることからその思いを忘れず取組んでいきたいです。ありがとうございました。
- 他校の取組みを聞くことができ、それぞれの努力を感じました。そして、同じ気持ちで頑張っていることも感じ、これからの取組みの意欲になりました。ありがとうございました。
- 各校の実践を聞く場はとても勉強になると思いました。さまざまな立場から「子どもの学力」についてお話いただいたと思うのですが、今の世の中は本当に目に見える部分を求めてきているなと思います。そのことだけにとらわれるのではなく、今日ご発表いただいたような、ぶれない、明確な視点を持って今後も子どもたちに接したいと思います。子どもたちそれぞれにいいところはあると思いますので、そのことを大事に切り捨てない関わり方をできたらと思いました
- 本日はよいお話をたくさん聞くことができて、参加してよかったと思っています。現在、所属している職場の子どもたちの成長のさらなる手助けができるようになりたいと、ますますやる気が出てきました。また今回のようなお話を聞く機会があればうれしいです
- 多岐にわたる観点からの話を聞くことができ、よい機会でありました。そこに地域や保護者の方のお話も聞きたいと感じました。
- 志水先生のお話が興味深かった。下位層の学力向上にむけた校内研修の必要性を感じた

中学校教職員

- 小学校、中学校それぞれの立場でのお話、とても勉強になりました。一致して全員で取組むことの大切さ、バランスの取れた人間を育てることの大切さ、今後に役立ちます。ありがとうございました
- 「学力を育てる」という非常にあいまいな課題について、実際の取組みやその成果を聞けて、とても勉強になりました。目に見えない学力をつけさせるのが重要だと思っていましたが、そのためにも「葉」の部分の学習も大切なのだと感じました。今後の学習方法の参考にさせていただきます
- 元気の出るフォーラムでした
- もう少し保護者向けの話があればよかったのでは。誰を対象にしたものかわかりにくい気がしました
- 志水先生の学力向上についての取組みを具体的にもう少し詳しく教えてほしかった

保護者

- 学校の取組みを知ることができただけでなく、その取り組みが、今、子どもの教育とはどういうものなのか、志水教授の講演で理解を深めたうえで考えることができた。市長は教員向けの内輪の取組みと勘違いしていたようだが、そうならないよう、保護者の学びの場をつくっていただくことによって、より良い学校生活を子どもが送れるよう、フォーラムは続けてほしいです
- 自尊感情をどうやって高めるかに苦心している。日々の習慣とプラスの経験が重要といわれて納得。根っこを育てるために葉を茂らせることも必要との話も目からうろこ。根っこがないと葉は茂らない…というわけではない。自分の小学校の取組みが発表されたわけではないので、きっと同様に研究を進めて取り組まれていると思いたいです。若い先生（担任１年目の先生が今年は５名）ばかりなので、先生のベクトルを合わせる協力体制があればいいなと思います。今日の話を自分の家のことに反映できるようにたくさん考えました。生きづらい傾向にある長男のことばかり頭に浮かびました。「先生に言っても何もわからない」「がんばってもいいことはなんにもない」「仲間なんて一人もいない」という声を聞いて悲しい気持ちになっています。学校と先生を信じて、家庭でできることをしていきたいと思います。
- 各学校の先生方は、子どもたちのことをいろいろと考えて教育してくれていると感じました。学校、保護者、地域で協力して知・徳・体のバランスの取れた子どもたちに育て、育んでいければいいなと思いました。このフォーラムを聞きに来てよかったです
- 他の学校の取組みを直接先生から聞けたのはよかったです。今回は西中校区が中心でしたが、他の校区の取組みも聞けるような機会があればと思います。講演は時間が少なかったこともありますが、もう少し、深く掘り下げた話が聞ければと感じました。今回は学校からの報告が主でしたが、今後、家庭や地域も含めたフォーラムを期待します。
- 当たり前のことをやれていない。当たり前のことなのにやるのはとても難しいのだなと感じました。スクールバスのエンジン部分を強くするために、先生たちが本来の仕事に専念できるような環境をつくるのが大切だと思います。学力の樹の幹・根の部分は家庭が大きいと思います。先生方がいくら頑張っても限界があります。家庭と学校のより深い関係が必要と思います先生同士で授業を見合うのはとても大切と思います。授業や懇談で言葉は悪いですが「この先生は、うまくないなあ」と思う先生もいます。よいところを学び合うのは子どもたちだけでなく、先生も同じではないでしょうか。
- やる気を本人が持ち、自学自習できるようになるにはまず習慣、プラスになる体験、ほめることが大切なのだと感じました。他市のように四條畷市も小１段階より英語授業を早急に取り入れていただきたい。基本的挨拶、子どもたち全員ができているのかも不安。不登校はあるのですか
- 志水先生の講演時間をもっと長くしてほしかった。パネルディスカッションの質問内容や回答が重複する部分が多かった。先生方の意見が聞けたのでよかったです。金子先生に共感しました。
- 孫の学級が授業中騒ぐ子が数人いて、習うことが遅れているらしい。今の体罰問題をもっと真剣に考えて親の教育をして聞くことは特にしてほしい。取組んでおられるそれぞれの学校が素晴らしいと思いましたが、他の先生にも広げてください。せっかくある自然とのふれあいをたくさんさせてあげてほしい。こどもの安全のためには、高齢者のボランティアを活用することをお願いしたい。毎年行ってください。
- 学校の取組みや先生方の思いを聞くことができ、学校に行かせることの不安は少なくなったと思います。先生方もお忙しくされている中、子どもたちのためにいろいろと考えていただいていると感謝します。学力向上と精神的な成長とを今後も見守っていただくために保護者も協力しなければならないと思います
- 各学校、いろいろな勉強の取組みをしていただいているので、長い目で見ると学力は向上していくのでは…と少し期待はしています。が、心配なのはまわりの環境が整っていない気がします。例えば、授業中に数人の子どもたちがウロウロしたり先生がその子どもたちに時間を取られている間に、授業が遅れていき、最後にドタバタと単元を終わらせたりする。身につくまえに学年が上がり、結局、まわりの子どもが迷惑をこうむることが少なくないと思う。あと新任の教員の方が多く、子どものことで相談してもなかなかうまく対処していただくことが難しくなっている気がします。いじ

めに対しても配慮が少なくなっていると思います。学力向上ももちろん必要ですが、人間として大切なことをもっと学ばせてほしいと思います。これは子どもたちもですが、先生方も学んでいただきたいと思います。

- 先生たちのチームワークをよくして統一されたらとても良いと思います。しかし、統一するときに先生たちがしっかり考えを確認し合って、一人の先生の言うとおりにするのではなく、全先生の意見を聞いたうえで方向性を出していってもらいたいです。学校での取り組みはとても興味深く聞くことができました。あと、家庭での学習への取り組み方、サポートをどんなふうにするのかのアドバイスがほしかったと思います。学校の勉強や行事などに意欲的に子どもが取り組んで楽しい学校生活が送れるようによろしくお願いします。
- 先生方、学校側の取組みはありがたいと思います。ただ、その説明は保護者側に伝わってないのではないでしょうか。学校側が何を考えているかをもっとアピールしてほしいと思いました。最近、先生個々の個性が見れないので、「気持ちはそろっているけど、個性のある教師集団」を希望します
- ３校の取組みよかった。特にくすのきの朝学。他校でもぜひ取り入れてほしい
- 改めて、地域、家庭、学校、子どもたち、親、たくさんのつながりが大切であるということを認識しました。それと学力は毎日の習慣が大切であるということです。
- 各学校の内容と先生方の話と志水先生の講演については、いろいろと分かりやすく、すごく勉強になりました。次回もあれば、ぜひ参加したいと思います。
- 冒頭の市長のごあいさつで、校長先生方に市長の意向を伝えられたとお話がありました。とりわけ大阪においては、市長が教育の分野に自らの意向を強く指す方向が見られます。しかし、教育は子どものものであり、親のものであり、先生のものであると思います。子どもたちの実態に向き合うことが最も大切であり、公約達成のための「学力向上」にならないように保護者の一人として取り組みたいと思います。学ぶ力と生きる力がイコールとなるように！！志水先生のお話は非常に、興味深いものでした。パネルディスカッションでは、現場の先生方の努力を垣間見ました。
- 特にありません。一つだけ家庭学習の充実は大事なことと思いました。塾だけでなく、学習の質、量を増やすためには、家庭での勉強をいかに習慣づけるかが大事だと思いました
- 講演時、マイクの雑音が耳についた。講師の方も気になるのでは、最低の準備だと思う。実践発表、くすのき小と岡部小はそれぞれ取組みが学力の樹で言うとくすのきが葉Ａ、岡部が根Ｃをされているのではないかと思った。大変すばらしいと思った。過去ＰＴＡの役員をしたとき、年間子ども一人当たりの費用が１０００円台で驚いたことがある。やはりある程度お金をかけることは必要だと思う。講演はとても面白かった。私の子どもは、高３と中３．もう四條畷市内で学ぶことはないと思いますが、新たに学力向上にむけての取組みはうらやましい限りです。（うちは３学期制→２学期制→３学期制になったり、ゆとり教育で子どもの教育環境に落ち着きがなかったので。）ただ、ＰＴＡ活動を通じて、現場で子どもを指導してくださっている先生方の気持ちと熱意には感謝しております
- 志水教授のお話（噛み砕いていただいていたので）本当にわかりやすかったです。秋田県と福井県の子どもたちの学力が高いというのは以前より聞いておりましたが、それがなぜなのか？ずっとわかりませんでした。今日のお話を聞いて納得しました。そして、大阪府の子どもたちの学力が低いことについて大きな三つの原因のうちの一つである離婚率。うちの子も小３よりひとり親にしてしまったので、とても心の痛いお話でした。まあ、今のところ、素敵な友達と先生に囲まれて、学力について心配することなく、育ってくれています。生徒会長という大役もなぜか自分で引き受けてきて、本当によく頑張っているなと思っています。うちのように「一人親・貧乏・持ち家・自家用車なし」というように悪条件の家庭でそだっていても、学校（そこでかかわる先生、友だち）に行くことが楽しければ、子ども自身がんばれるのかなと思います。葉っぱも幹もすごく大事だと思いますが、やっぱり根がしっかりしていないと、少しの風が吹くだけでバッタリ倒れてしまうのではないでしょうか？痛ましい事件が起こることも多くなり、先生方のご苦労も増える一方だと思いますが、ただただ先生方を信頼して子どもをおまかせしている家庭がたくさんありますので、がんばっていただきたいとおもいます。私もがんばります！！
- 中学校の発表において、学力への直接的な検証や今後の取組みなどの話がないのが、非常に残念であった。現在の西中学校の取組みは小学校でやれて当たり前のことではないのかと愕然とした。「確かな学力の定着に向けて」というテーマだったので、それに沿った内容をもっと深めて聞きたかった。とはいえ、今回のようなフォーラムには初めて参加しましたが、各学校のカラーや、どこに力を入れて教育しているのかがわかる部分も多く、非常に勉強になった。志水先生のお話もなるほど！！と思わせることがたくさんあり、家庭での学習に対するアプローチの参考になりました。
- 冒頭の市長のあいさつの内容についてですが、学校の先生方、教育委員会の頑張りをあまりご存じないのか、批判的なニュアンスを感じました。志水先生の講演内容をベースに教育委員会の取組み、学校、教員の頑張りを支援してもらいたいと思います。
- 毎日の習慣が一番大切。学校での１０分学習や家庭での少しの時間の積み重ねが、学力の基礎となることがよく分かりました。子どもの興味をもっと、勉強へと結びつける伝え方を見つけていきます。

市職員

- 学校現場のことを知らなかったので、よい機会となりました
- とても参考になりました。なかなか市内の学校の先生や校長のお話や熱い想いを聞くことがなかったので、よかったです。四條畷にもよい学校があり、よい先生がたくさんいるんだと思いました。
- 市の関わる方々が多方面から参加してもらって、今の学校の現状を知り、課題を共有し、互いにより良くする方法を考えて、その方向に力を合わせて取り組んでいけたらと願いますが、今回はその一歩になったのではないでしょうか。私たち大人が今、子どもたちにできることを精一杯していけるよう、学校も教育委員会も、どんどん地域に開かれておかれたらと思います
- 確かな学力が基礎となり、生きる力、自尊感情を高め、結果、子どもが豊かに生きていけるためにはどうすればいいのか、考えるきっかけになりました。“知るは学ぶの初め”というように、まず家庭が学ぶことの大切さを知らないと、子どもは知る機会さえ得ることができないので親の役割は本当に大切だと感じました。学校の問題として、学力問題を考えることも大切ですが、保護者と問題課題を共有し、取組みを知らせてもらい、そこからがスタートになるのかと思います。本日はありがとうございました。（私も２０数年前、小学校で１００マス足し算・九九をやって自信がついて、今でも計算は得意です）
- 子どもたちの学力向上には、学校・家庭・地域が同じ方向に向いていくことが大切ですが、子どもの思い、意見も聞いてあげてほしいと思います。四條畷のすべての子どもの学力が向上できたらいいなと思うと同時に、教師の皆さんが大変だなと思います。子どもたちのために頑張ってください。

地域関係者

- 教育、共育の２点の推進策の過程が確認できた。小学校１～３年　本市の自然を可能な限り、五感体験させる。自然面、科学面、本物の音楽、絵画、芸術面も同対象（前頭葉の養育）。家庭内のテレビを見る時間を減らし、ラジオを聴かす運動→学習時間を増やす（耳の養育）。中学生、小学生（４～６年対象）携帯電話使用通話制限。目的は電話を通した断片情報の軽い内容を説明し続ける→新聞を読む習慣化。定期的に全国、大阪、近郊モデル校との評価比較継続。「機械的に暗記する項目」「考える項目」「実物を見る目」例九九

市議会議員

- 今回のフォーラムを一度だけのものとはせず、継続的なものにしてほしい
- 高い意識、情熱を持って取り組んでいることを感じた。他の教師の方にも期待したい。議会としても、より良い教育環境づくりに努めたい

その他

- 貴重なお時間ありがとうございました。先生方から各学校の取組みの話を聞き、教師の工夫、子どもたちの変化を知ることができてよかったです。今後の課題はとても難しいことだと思いました。その今後の課題がどうなるのか気になります。ありがとうございました
- 志水先生の現場でのリアルな意見が聞けてとてもよかったです
- 志水先生のお話が非常に参考になりました
- 確かな学力をつけるために大切なことをいろいろな立場の先生方から、いろいろな話を聞くことで理解できた。集団の力、いろいろなつながりが一番大切だと思ったので、自分たちもそこに積極的に参加していきたいと思った。
- 学力の向上について、あまり考えたことが恥ずかしながらありませんでした（養護教諭志望学生です）。先生方や地域の方々がこのような取組みに努める中、養護教諭に何ができるのだろうという疑問も生まれ、このことについて今回を機にもっとよく学ぼうと考えさせられました。今日は本当にありがとうございました
- よいところは今後もしっかり伸ばし、足りなかったところを補うことの大切さを学ぶことができました。大阪の良さを考えながら教育するということも重要だと思いました
- 現場の実践をお聞きすることができ、教育現場の実際がよく分かり、よりよい環境で子どもたちが学ぶことができるようになればよいなと思いました
- エピソードも交え、具体的でわかりやすい講演でした。４５分という時間では不十分で９０分は必要だと感じました。実践発表の１０分という時間も１５分～２０分は必要のように思えた。志水先生のお話の中で印象的な部分は、学力の向上は学校サイドだけの問題ではなく、地域や家庭の機能、役割の重要性も感じました。教職員が同じ方向を向いてがんばるというお話が多かったけれど、いまさらという感じがあります。ただし、先生の入れ替えなどもあり、これは毎年の課題とも言えるでしょう

- 実践発表の各校とも、一生懸命「学力向上」に向けた取り組みをされていることが伝わりました。年々ステップアップできるよう、がんばっていただきたい。講演の中で、家庭の子どもへの信頼の大切さ、学校との信頼関係の大切さに気づきました。「確かな学力の定着に向けて」のパネルディスカッションの各校の発表で先生方の熱心な取組みは理解できました。次年度の取組みについては、保護者との信頼度を高めるとともに、地域の人たちとの協働に向けて、お互いの信頼度を高めてほしい
- 実践発表に関して「学校」の研究発表として私自身（子どもが小中学校を巣立って２０年）は目新しく感じました。同じ教育を職業としている立場からの視点では、もう少し質問したい点、お聞きしたい点など多々ありました。志水先生のお話は面白かったです。自分自身が仕事的に次年度の指導計画を作成していて、ほぼその基底部分で共感、協同していることが多くあり、我ながらにんまりしてしまいました。そしてプラスして思考と実践に向いて深める根源を見いだせて、本当に今日参加させていただき感謝。